

1 本年度重点目標

- (1) 生徒に基礎学力を定着させ、自学自習の習慣をつけさせる。
 (2) 生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す。
 (3) 生徒に主体的に考え、行動することの大切さを理解させる。
 (4) 関係法令やガイドラインについて、連携施設との共通理解を進める。

評価項目	自己評価	第三者評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 英語と数学における義務教育範囲の学び直しと、学びに対する自信の創出を目的とし、クラークオリジナル教材「基礎学力オールチェック」を全日型1年生に実施した。取り組みの結果、年度末には約90%の生徒が目標を達成することができた。 高校教育範囲の確実な学力の定着を目指し、日々の教育活動の中で教科書学習内容とWEB教材を紐付けた対照表の活用を心掛け、生徒の自学自習の習慣化に努めた。 また定期的に行うクラーク独自の学習到達テストの結果からみえた苦手単元に対してもWEB教材との紐づけ帳票を作成・返却し、長期休みに復習できる環境を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 着実に学力を伸ばしていると評価できる。 1年生の前半期に実施している各種テストが相互に関連していることが重要である。 「学力」の捉え方も「知識・技能」の修得に加え、今後、新学習指導要領や大学入試システムにどう対応させるかも大切になってくる。 学力テスト長年上位に位置する秋田県大館市の「調べ学習」の取組を紹介していただいた。 WEB教材は「使用回数」のみならず、「積極的意思をもって利用した生徒が、どのような成果を出しているのか」という観点から、ポートフォリオ、確認テスト等を指標とすることが適切である。確認テスト等も、結果の記録のみならず、その経過観察に力点をおくべきである。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 入学生用教材の改訂やWEB教材に解説動画を加え、自学自習を促し、中学校段階の理解到達時期を9月末時点に早める。 学習進度表の単元欄にWEB教材該当項目や習熟度に応じた活用方法を付記する。 	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業のみを目標とせず、将来、生徒たちが社会で活躍できる夢を見つけ、その実現に向け力強く挑戦できる次のステップへ踏み出すこと目標に、早期からの計画的な進路指導の実施に努めた。 また全国進路指導部会を通じた各地区の進路情報の共有にも努め、多様な生徒のニーズに答える組織体制の強化にも努めた。 その結果、今年度の卒業生にとった進路満足度調査の内、決定進路先の満足度は約83%となった。 尚、難関大学への進学者も年々増加しており、今年度は東京大学を含む国立大や早慶上理等への合格者も多く輩出した。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の取り組み・方針は評価できる。これをいかに各現場の教員に浸透させることが課題である。 キャリアガイダンスとセットにした進学指導の充実を図ってほしい。 今後、在宅型生徒に対する進路指導について包括的な検証を行い、更に改善を行ってほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 通学日数の一番少ない在宅型コース生徒に対する進路指導の強化として、WEBを利用して、いつでも閲覧可能な進路通信を発行する。 インターンシップや就職説明会等への参加を促進させる。 	

評価項目	自己評価	第三者評価
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、判断し、行動するための最初の一步が、毎日、安心して学校へ通えることである。そのため、遅刻や欠席を可視化し、家庭との連絡を速やかに行う体制を確立した。 出席率が低下する時期を見据え、生徒会行事などの年間計画を改編した。 いじめの解消については、関係法令に基づきアンケート調査等を実施し、適切に対応する体制が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人カルテシステムが大変興味深い。指導の可視化を実現するツールであり、活用を徹底する方策の検討を続けてほしい。 出席状況の重篤な生徒の悩みに寄り添いながら対応して欲しい。 「いじめを絶対に許さない」という方針を明確に示す取組みをしている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の悩みや回復状況に対応しながら、出席率の向上を図る。 今後も「いじめ」はいつでもどこでも起きる可能性があるとの前提に立ち、早期発見と的確な対応に努める。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの趣旨について共通理解を図ることを目的とし、連携施設の点検指導・視察を2回以上実施した。 関係諸法令、特にガイドラインの理解を徹底させるとともに、クランク高校の教育理念の共有化及び教員の指導力の向上等、資質の向上を図ることを目的とし、個々の教員の能力、適性等に応じて必要な事項に関する研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修において実践的な指導力をつける意味でOJTの充実が必要と思われる。 研修実施数については一定以上確保されている。今後はキャリアラダーに応じた研修計画を策定してはどうか。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設との共通理解に努める。 初任者に対するメンター制度の導入を進める。 	

【第三者評価委員会 委員名簿】

氏名		主な経歴
委員	樋口 修資	明星大学教育学部 教授 同通信制大学院教育学研究科研究科長 元文部科学省初等中等教育局担当審議官 元文部科学省スポーツ・青少年局長
委員	飯島 篤	全国高等学校通信制教育研究会顧問 文部科学省 広域通信制高校に関するアドバイザー 元全通研会長、元事務局長 元東京都立上野高等学校校長
委員	伊藤 美奈子	奈良女子大学生活環境学部教授
委員	内田 伸子	十文字学園女子大学 特任教授 福岡女学院大学大学院 客員教授 お茶の水女子大学名誉教授 元お茶の水女子大学理事、副学長、教授 元筑波大学常勤監事
委員	小泉 カー	環太平洋大学次世代教育学部 教授 元文部科学省生涯学習政策局学習情報官
委員	徳本 俊二	徳本法律事務所 弁護士